

受験番号

2021年度

神戸国際中学校 B-I 選考

国 語

(2021年1月17日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一 次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

※ルース・ベネディクトは、「人の目」から a ヒナン される「恥」を強く意識する日本文化を「恥の文化」と呼んだ。しかし、彼女は①もうひとつの「恥」を見落としていた。それは「私としたことがこんなことをしてしまうとは！」という、「自らを恥じる」という恥である。誰からも見られていなくても、恥じる。あるいは、「こんなことをしてしまって、ご先祖さまに申し訳ない」「亡き恩師の期待をもうラギってしまった」と、既に生きていない人に対して恥じる。②日本人の倫理観は、単に自分の周囲の「人の目」だけではなく、先人たちや恩師たち、(A) 自分自身に対して恥ずかしいという感覚にも支えられていたのである。

しかし、③そうした恥の感覚が薄れ、ベネディクトの言うように「人の目」のみを気にするように「恥の文化」が④縮小してしまい、それ故「人の目」が気にならなくなれば何でもやってしまうというのが現在の日本人の姿なのではないか。そして、そこには決定的に欠けているものがある。それは自分自身に対する「自尊心」だ。

⑤自分自身に対する自尊心がある人間ならば、「人の目」がないところでも、何でもやり放題ということにはならない。自尊心とは自己信頼と言いつてもいい。自分自身が尊い存在であるということに認めている人。尊重されるに足る存在だと感じている人。自己を信頼し、自尊心のある人は、「私としたことが、恥ずかしい」ということはあまりしな

いし、してしまったにしても反省する。(B)、自尊心が低く「自分なんかどうせたいしたことないんだよ」と思っている人は、人の目がなくなってしまうようなことでもできてしまう。自分という存在が、(ワガママ)な行動を※律する歯止めにならないのだ。

《我がまま》が《ワガママ》に転ずるかどうか。それは、そこに自尊心、自己信頼があるかどうかが大きに分かれ目になる。自己信頼に支えられた《我がまま》の c ツイキウは自分を生かし、他者も生かすものとなることが多い。しかし、自己信頼のない《我がまま》は《ワガママ》となって他人に多大な d メイワクをかけるものになりがちだ。(C)、現在の《ワガママ》が※横行する社会は、私たちひとりひとりの自己信頼、自尊心が低い社会であることの裏返しだと言えるのである。

(上田紀行 『生きる意味』)

※ルース・ベネディクト：アメリカ合衆国の文化人類学者。

※律する：自分の衝動や欲求などを自分で抑えること。

※横行：好ましくないものや考え方が勢いをもってのさばること。

問1 Ⅱ a～dのカタカナを漢字で答えなさい。

問2 (A) (C) に入る語として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ そして ウ ところで
エ しかし オ つまり

問3 ①「もうひとつの『恥』」とありますが、どのようなものですか。

十五字以内で抜き出しなさい。

問4 ②「日本人」とありますが、今の日本人に必要なだと筆者が述べているものは何ですか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問5 ③「そうした恥の感覚」とありますが、どのような感覚ですか。

その説明として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の周囲の「人の目」から非難されることに「恥ずかしい」と思う感覚。

イ すでに生きていない先人や恩師たちからの期待に「恥ずかしい」と思う感覚。

ウ 先人や恩師たちに加え、自分自身に対しても「恥ずかしい」と思う感覚。

エ 「人の目」に加え、先人や恩師たちからの非難にも「恥ずかしい」と思う感覚。

問6 ④「縮小」の対義語を答えなさい。

問7 ⑤「自分自身に対する自尊心がある人間ならば、「人の目」がないところでも、何でもやり放題ということにはならない」とありますが、なぜですか。その理由を本文中の語句を用いて五十字以内で答えなさい。

問8 本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×を付けなさい。

ア ルース・ベネディクトは「人の目」がなければ何でもやってしまいう文化を「恥の文化」と呼んだ。

イ 日本人に欠けているものは、「人の目」を強く意識するような「恥の文化」である。

ウ 自尊心のある人は、自分のした行動について反省することは全くといっていいほど無い。

エ 現在の日本は、自己信頼のある（我がまま）ではなく、（ワガママ）が多い社会である。

一 二次の文を読み、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。）

午後の授業は平穩へいおんに過ぎた。

まやまやの立てた「作戦」が、カナに気づかれる事はなかった。三人とも、そんなへまはしない。昼休みに、めぐ美はいつも以上にひょうきんに振る舞ったし、まやまやとリッチーも、ごく自然におしゃべりし、笑い転げた。傍はたから見たら、最高に仲の良い四人組だ。実際、四人でこうしてふざけ合う時間は、めぐ美の一日の中で何よりもたのしいひとときなのだった。

それでも、帰り道をひとりで歩き出す時、心に①暗い靄もやが漂ただよう。カナもリッチーもまやまやも、方向が逆なので、校門前で別れる。

ひとりになるのは寂しい。そればかりでなく、帰り道の三人が、自分

の話をするのではないかという小さな不安が芽を出す。リッチーとまやまやがカナに何かを言ってしまうんじゃないか。その不安は、めぐ美の心の底に、いつも少しだけ存在していた。

通りの先に黒いランドセルを背負った小磯がいた。

気づかれたくなくて、めぐ美は歩みを遅くした。【小磯も誰かを待っているようで、ゆつくり歩いている。そう思ったら、立ち止まり、街路樹にもたれた。めぐ美の姿を見つけると、のろのろとした動作で体の向きを変えて歩き出した。それからまた振り向いて、めぐ美をちらちらと見る。】どんなにゆつくり歩いても、めぐ美は小磯に追いついてしまう。

「今日、まつすうが休み」

めぐ美は小磯にいった。なぜか、ひとりで帰っている理由を説明しなくなった。

「知ってる」

と小磯は答えた。

大通りから、駐車場の通りに曲がったところで急にひとけがなくなる。ふたりきりになった。めぐ美は、まつすうのお母さんが、今日は小磯と帰るようにと言っていたのを思い出した。小磯は少し先を歩いているが、歩き方を調整してくれているのが分かる。時おり後ろを向いて、めぐ美がついてきていることを確認する。

まつすうのお母さんは、めぐ美をひとりにしないよう、小磯に頼んでくれていたのだ。そう思って、納得した。小磯と歩くのはぎこちない感じがしたが、それでもひとりきりでこの※閑散かんさんとした道に行くよりはまじだった。よそのお母さんなのに、どうしてこんなにめぐ美の心配してくれるのか、分からなかったが、結果的においに助けられている。マ

マが、まつすうのお母さんのことを心配性だと、ばかにするように笑っていたことを思い出したら、②胸むねがきゆうつと痛んだ。あの時、めぐ美も笑ったのだった。

閑散とした道が終わり、公園前を歩き出す。

落ち葉を あ 踏みながら歩く。それまで黙って先を歩いていた小磯が、ふいに振り向いて、

「あ、そうだ、フヨミ、明日までだから」

と言い、走って行った。

その言葉がきっかけだった。めぐ美の中に、いと溜まりつつあった感情を、心の縁ふちから初めてこぼすことになる、その一滴ひとしずく。

「小磯！」

気づいたら叫んでいた。

びっくりするほど大きな声が出た。

振り向いた小磯に向かって、めぐ美は走った。近づいてきためぐ美の顔が涙で濡ぬれているのを見た小磯は口をちいさく開け、ぼかんとしたその顔で、

「こけたの？」

と訊きいた。

③間まが抜けたようなその幼い顔と質問に、めぐ美はつい笑ってしまい、

笑ったまま、

「フヨミって何？」

やっと、訊くことができた。それってスマホで検索すればいいだけだったなとひらめいて、自分のばかさにまた笑ってしまった。でも、誰かに教えてもらいたかった。自分が誰にも訊けないということ、

めぐ美は思い知らされていたから。リッチーにも、まやまやにも、カナにも、先生にも、きょうだいにも、ママにも訊けなかったから。そして、小磯の言い方は冷たかった。小磯はいつからこんな意地悪そうな顔をするようになったのだろう。人を見下すような目をするようになったのだろう。色々なことがごちゃ混ぜになって、めぐ美の心に降ってくる。肺がふくらんで、息がくるしくなる。目の奥が熱くはれてくるように、次第に痛み出してきて、気づいたら泣いていた。こんなことで、④わたし、泣く。前にいつ泣いたのかをめぐ美は思い出せなかった。だけど、今日は泣いている。両頬を伝う涙は、めぐ美にとって、どこか非現実的で、かえって破れかぶれな気持ちにさせるくらい。

涙を流しながら笑うめぐ美を、不気味なものを見るような目で見ながら、

「は？A譜読みっていったら、譜読みじゃん」

小磯が言う。

「だから、意味が分かんない！なんだよ、Bフヨミって！」

めぐ美は涙をぬぐって、大きな声でもう一度訊いた。

「は？楽譜で音を取ることでよ」

「音を取る」

「ドレミ……っての。覚えてから、弾けるようにする」

「それ、小磯が、やったの？」

「は？おれがやるってどういうこと」

「『は？』『は？』ってうるさすぎ。仕方ないじゃん！あたし、楽譜読めないんだから！」

「なんで」

小磯は無邪気な顔で訊かれたせいで、めぐ美は、これまで持っていた恥ずかしさが、実はすぐくちっぽけなものだったように思えた。

「読めないんだから、読めないんだよ！」

⑤開き直って言った。

「だって、音楽で習わなかった？」

「忘れちゃったよ！そんなの」

小磯は「仕方ねえなあ……」とぶつぶつ呟きながらランドセルを肩からはずして足元に置く。教科書やプリントがぐしゃぐしゃに入れてある奥のほうからうすいクリアファイルを出した。『ブラジル』の楽譜が入っていた。

（朝比奈あすか 『君たちは今が世界』）

※閑散：…ひっそりとしても静かなさま。

問1 — ①「暗い靄」とありますが、これはどういう不安ですか。次の語句に続くように五十字以内で答えなさい。

三人と別れて歩き出したので、

問2 【 】の部分のように「小磯」が行動したのはどうしてですか。三

十字以内で答えなさい。

問3 — ②「胸がきゅうつと痛んだ」とありますが、これはどうしてですか。その説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア まつすうのお母さんが心配してくれる気持ちがありがたくて、たまらなかったから。

イ ママがまつすうのお母さんのことをばかにするように笑ったのが憎らしかったから。

ウ ママならこんなに心配はしてくれないだろうと思うと、苦しくなつてしまったから。

エ 心配性だとまつすうのお母さんを以前笑ってしまったことが後ろめたかったから。

問4 あ・いに入る言葉として適切なものを次のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア コツコツ イ かさかさ ウ ドストス

エ ポツポツ オ みるみる カ ざざざあ

問5 ③「間が抜けたようなその幼い顔」とあるが、「小磯」がそんな顔をしたのはどうしてですか。二十字以内で答えなさい。

問6 ④「わたし、泣く」とありますが、このときのめぐ美の気持ちの説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で選びなさい。

ア 自分の馬鹿さかげんに気づき、その自分のふがいなさが情けなくなつた。

イ 小磯のいつもの冷たい口調と見下すような目に気付き、意地悪をされたとショックを受けた。

ウ 本当はわからなかったことをだれにも聞けずずっと我慢していたことがつらかった。

エ 普段なら泣かないようなことが重なっただけなのに、思いがけない涙が出てしまった。

問7 ⅡA・ⅡBについて、この二つの部分の文字の表記を変えることによつて、どんなことを表現しているのですか。説明しなさい。

問8 ⑤「開き直つて」とありますが、どうして「めぐ美」は開き直つたのか、「くから」が続くように本文中から四十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

二 次の①～③の文の傍線部の一部と同じ用法のものを、それぞれア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 廊下を走るなと叱られた。

ア 休みなのにやる事がない。

イ 大きな木が立っている。

ウ 絶対に忘れ物はするなよ。

エ 彼女はとても温厚な人だ。

② 遠足に出かける。

ア 野良犬に追いかけられる。

イ 文房具を買いに行く。

ウ すっかり元気になる。

エ お母さんに連絡をする。

③ 先生の言ったことは今も覚えている。

ア とても良いハーブの香りがそこら中にただよっている。

イ あの子供たちの笑った顔がどうしても忘れられない。

ウ そのコンピュータよりもこちらのほうがよりすぐ優れている。

エ 勉強しなさいだの早く寝なさいだのと母親に怒られる。

四 次の文の（ ）に入る適当な漢数字を答えなさい。

① 早起きは（ ）文の徳

② 岡目（ ）目

③ 親の（ ）光り

④ （ ）寸の光陰軽んずべからず